

矢沢たかお

川崎市議会議員 矢沢たかおニュース

NEWS



Photo: センチュリータウン付近
Vol 08
2017 February ~ 2017 April

みなさんこんにちは。川崎市議会議員（宮前区選出）の矢沢孝雄です。

本年、3月17日に予算審査特別委員会を含む第1回定例会が閉会となりました。平成29年度は、議会が大きく変わります。昨年度から開始したインターネット中継は元より、(1)タブレット端末を活用した文書共有システム導入（ペーパレス化）、(2)ホームページから投稿可能な議会目安箱の設置、(3)大都市税制特別委員会の設置などの取組が展開されます。当方は会派を代表して(1)の推進委員、本年度所属のまちづくり委員会に加えて、(3)の委員も拝命しました。重責を全うできるよう、本年度もしっかり取り組んでまいります。

予算審査特別委員会 ごの質問 ③ 項目

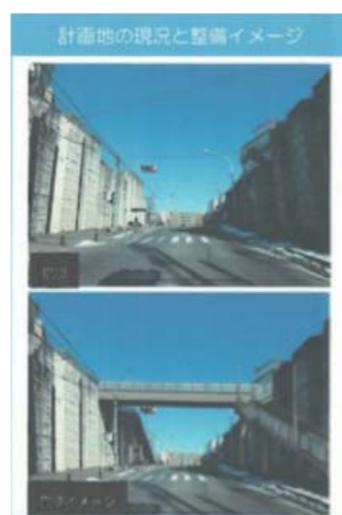
1 市道向ヶ丘48号線人道整備事業費について

Q 本事業費は、宮前区土橋地区から初山地区にかけて設置される人道橋整備に関するものですが、本事業は平成10年の擁壁整備以降、長年にわたり、具体的な事業実施の目処が経っていなかったものです。今回予算案として計上となった経緯及び、当初は車道としての整備を予定していたはずだったものが、人道橋となった理由を伺いました。また、工期を含めた事業内容と車椅子移動者の移動を考慮したバリアフリー化に対しての検討結果を伺いました。

A 本事業は都市計画道路、向ヶ丘遊園駅菅生線をまたぎ、宮前区の土橋地区と初山地区を結ぶ橋梁整備事業で、車両通行可能な歩道橋として平成4年に測量業務に着手したものだが、地元住民の方々から周辺の道路幅員が狭く、橋を架けた場合、歩行者の安全対策や生活環境の悪化が懸念されたことから、整備について反対の意見があった。本市としては、度重なる地元説明会等を行ったが、理解が得られず、事業の見直しについて検討してきた。こうした中、向ヶ丘地区連合自治会や地元町内会と協議調整を重ね、周辺の生活環境や高齢者・障害者に配慮し、人道橋として整備することで合意が図られたところである。実施予定内容として、平成

29年度については、人道橋本体を支える下部工と階段基礎工を予定しており、事業期間は約2年で全体事業費は2億5千万円程度を見込んでいる。本計画は、地域分断の解消や災害時の避難所への新たな経路の確保通学路の安全確保を目的に人道橋及び階段を整備するもの。バリアフリー化については、当該箇所は高低差が約11メートルあり、スロープなどを整備する事は構造上困難な為、階段を採用することになった。しかしながら、本市が目指す障害のある人がいきいきと暮らす上で様々な障壁を取り除いていく社会を実現する為にも、引き続き、当該箇所のバリアフリー化等について検討していく。

矢沢の意見要望
長い期間を経てようやく予算計上に至った本計画の確実な遂行と、車椅子移動者に配慮した周辺環境の整備も含めた検討を行っていただくよう要望致しました。



2 新規バス路線について

Q この度、向ヶ丘遊園駅からたまプラーザ駅を結ぶ路線が社会実験の結果を踏まえ4月1日から本格運行となりました。また、新規バス路線として溝ノ口駅から新百合ヶ丘駅を結ぶ路線の新設が来年度計画されていることに加え、任期当初から議会でも求め続けてきた「五所塚、平、初山からの宮前区役所へのアクセス向上」が既存バス路線の延伸といった形で実現されることの大いな前進です。運行の開始にあたっては、予定している運行時刻表によると、平日は毎日6本（10時台～15時台）。土日、休日は毎日3本の運行となっていますが、どのような検討がなされたのか具体的に伺います。

A 宮前区役所へのバス路線の延伸については、登戸駅から当該地区を経由して、菅生車庫まで運行している既存路線の一部を宮前区役所まで延伸するもの。平日は区役所開庁時間帯に利用いただけるように、土曜日曜は市民館等周辺施設への利用の利便性を考慮して、既存の経営資源の範囲内で検討を実施した。（※一部抜粋要約）

矢沢の意見要望
区役所までの延伸が実現された事は大きな一步ですが、運行時間帯には課題があります。利用状況を注視いただき、必要に応じて運行時間帯拡充の検討を要望しました。

3 危機管理対策費について

当方ホームページで質疑のやり掲載していますのでご確認頂ければ幸いです。

QRコード読み取りで詳細内容が確認できます



日々の活動

活動の一部を写真で紹介します
2017 2月 > 2017 4月



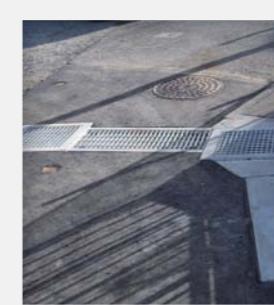
介護予防特化型デイサービスの視察
右から小田施設長、島村大 参議院議員、吉沢章子 市議会議員、矢沢孝雄 市議会議員



よこはま自民党政調会との情報共有・意見交換会



地域の陳情対応
(市道舗装と拡幅の検討)



地域の陳情対応
(雨水排出用の側溝整備)



特養視察
排泄予知システム実証実験の視察



農業委員会視察



第3回都市農業活性化フォーラム



川崎の都市農業を推進する会発足式



農園フェス@小泉農園
今年も大盛況でした！

しっかり聴く市民相談所

市民相談お気軽にお問い合わせください！

矢沢たかお事務所・・・神奈川県川崎市宮前区初山1-20-12

電話 044-976-2727

FAX 044-976-8686

mail mail@yazawa-t.info

矢沢たかお 検索
<http://www.yazawa-t.jp/>
[twitter](#) [facebook](#)



第1回川崎市議会 定例会のご報告

平成29年2月13日(月)～3月17日(金)の期間にて第1回川崎市議会定例会が開催されました。今回の定例会においては、「平成29年度川崎市一般会計予算」等の予算関連議案を含む計65本の議案審査が行われました。

平成29年度予算編成について

—止まらぬ社会保障関連の経費の増加 過去最大規模の減債基金からの借入れ—

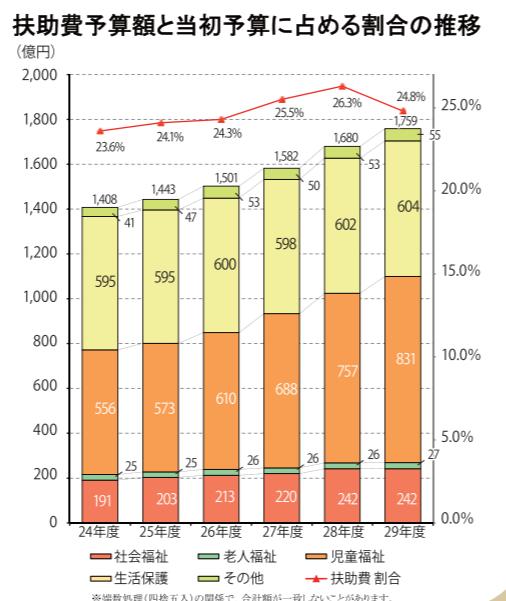
平成29年度の一般会計、特別会計及び企業会計を合わせた全会計の予算は、1兆4,444億円でした。一般会計予算は、過去最大の規模として計上された昨年度の額を優に超え、7,087億円と約10%強の増となりました。また昨年度、減債基金(借金返済のための積立)からの単年度借入が92億円であったのに対し、今年度の単年度借入は、その倍に当たる185億円となり、平成24年度決算からの借入総額は、393億円となりました。川崎市は、人口増や、市民税、固定資産税の増加を発表しましたが、今年度当初予算の市債発行額は、577億円でした。川崎市の人口増加見込みは、13年後の2030年をピークとしています。つまり、30年の市債償還を考える際、今年度の当初予算は、人口が減少している中で、市債、借金を返していくかなくてはなりません。未来の子どもたちのために投資した予算が、結果として未来の子どもたちにツケを残すような形になり、借金が重荷になるようでは元も子もありません。本市の人口減少時期が、公表されているからこそ、今回の予算編成では、人口減少、高齢化社会における持続可能な制度設計が求められているとし、当初予算では、そうした持続可能な社会の仕組み作りの考えをわかりやすく予算として示すべきとして、市長に質問をしました。答弁では、財政的な裏付けは示されないままに、「中長期的な財政状況を見通して予算を編成している」としました。また、将来的な財政負担の軽減につながる仕組みとして、学校の長期保全計画の推進や社会保障寒冷経費の伸びの抑制につながる自立支援、健康づくりなどの取組みを推進していくことでしたが、この取組みでどのくらい社会保障関連経費の抑制が図られるか財源的な根拠もなく、また未知数であり、しかも財政効果は、増え続ける社会保障関連経費と比較してもあまりにも小さいのではないかと指摘をしました。

また、今回の予算は、義務的経費増加の伸び率が、著しい予算になったことから、市長が明言する、スクラップ、スクラップ&ビルトは、どこの何が効率化され、どの事業が中止、または最適化されたのか、どの改革が結果として、市民サービスの向上へと還元されたのかについても質問をしました。

答弁では、取組み効果として、全会計41億円の財政効果が確保されたとのことです。ただし、残念ながら、財政効果はどこに反映されたのかという具体的な答弁はなく、結果として、減債基金の取り崩しを抑制すること(要するに、借金を大きくしない事)に使われたこととなりました。また、川崎市は、受益者負担の適正化と称し、様々な料金改定を予定しています。人口増加で、税収が増加する中においても、ゴミの有料化、駐車場の有料化、施設の使用料の値上げなど、年金暮らしの高齢者の方々からは、生活水準の低下を危惧する声があります。川崎市は、そうした生活する上での基礎的な環境の現状と課題をどのように捉えているかについても質問をしましたが、これについても、受益と負担の適正化という説明に終始しており、隣の世田谷区のように、現状と課題を明確にするまでには至りませんでした。

答弁の最後に市長は、今起こっている問題の多くの課題は、人口問題に起因していると答えました。その解決策として、待機児童対策や子育て環境整備に多くの予算を付けて、人口減少の影響ができる限り緩和していくとのことです。しかしながら、待機児童対策や子育て環境整備をすることが、人口問題の解決につながるという理論は、国でも懐疑的意見が多く、理論的には実証されていないのが現実です。我々自民党は、川崎市が元気で活気のある街であるために、高齢者、子ども、働く人、みんながいきいきと生活するために、バランスよく予算が配分されるために、市政の予算を注視しながら、市民の期待に応えられる活動をしてまいります。

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
扶助費	1,408	1,443	1,501	1,582	1,680	1,759
社会福祉	191	203	213	220	242	242
老人福祉	25	25	26	26	26	27
児童福祉	556	573	610	688	757	831
生活保護	595	595	600	598	602	604
その他	41	47	53	50	53	55
扶助費割合	23.6%	24.1%	24.3%	25.5%	26.3%	24.8%
予算額	5,956	5,984	6,171	6,189	6,390	7,088



矢沢たかお プロフィール

●昭和60年8月28日、川崎市宮前区初山に生まれる(31歳) ●川崎市立菅生小学校 卒業・川崎市立菅生中学校 卒業・法政大学第二高等学校 卒業・法政大学情報科学部コンピュータ科学科 卒業 ●平成20年4月 伊藤忠テクノソリューションズ(株)入社・平成26年7月 政治活動に専念するため同社を退社・自由民主党公認 宮前区市政政策委員・平成27年4月 川崎市議会選挙(宮前区)初当選・平成29年4月まちづくり委員会・農業委員会 ●剣道四段、空手二段、書道・毛筆三段 硬筆二段

何で通勤時間帯に走らないの?

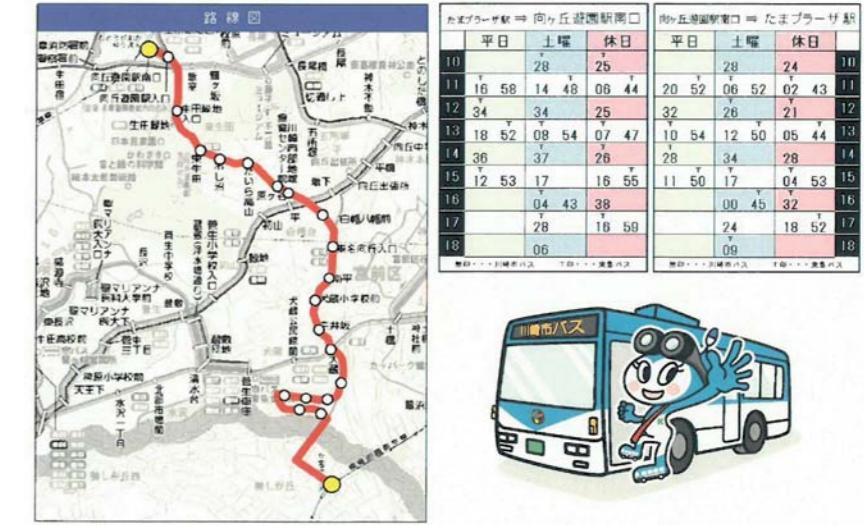
区内新規バス路線の充実と課題!!

~何で通勤時間帯に走ってくれないの!?新規バス路線~

バス路線新設が実現!一方、市民から寄せられた声も・・・

昨年度実施していた「向ヶ丘遊園駅からたまプラーザ駅を結ぶ新規バス路線」の社会実験を踏まえ、本年度から本格運行が決まりました。路線が川崎市内だけでなく横浜市内になる点、運行にあたっての資源確保、採算性の検討等、多くの課題がある中で、新規バス路線として本格運行に至ったことは交通網拡充にあたって大きな前進となりました。

その一方、地域の方々からの意見として「本格運行は嬉しいが、なぜ通勤時間帯に走らないのか?」といった声を複数件頂きました。



バスロータリーが逼迫!?現状と課題

この点については、実は本市交通局も課題だと認識しています。ですが、すぐには出来ない事情があります。それは、通勤時間帯における「バスターミナルの逼迫」です。右図の通り、通勤時間帯はすでにバスターミナルが飽和状態で、これ以上の新規路線は受け入れられない状態という事情があります。(向ヶ丘遊園駅南口も同様、通勤時間帯は逼迫しています) 結果的に、バスターミナルに余裕がある時間帯(昼間)での運行にせざるを得ないというのが、現時点の実態です。



今後の取組

改善に向けては様々な手法が検討できるのではないかと考えています。当局との深い議論が必要ですが、引き続き検討していく所存です。

本年度は上記新規バス路線に加え、宮前区内の五所塚、平、初山地区から宮前区役所へ直接接続するバス路線の拡充も実現されました。既に運行時間帯拡充の声がありますが、単に増やせば良いというわけではなく、採算性の議論も不可欠です。今後の運行状況を注視しながら、必要に応じて更なる利便性向上に向け、提言してまいりたいと思います。